

## 玉川学園 SGH 模擬国連会

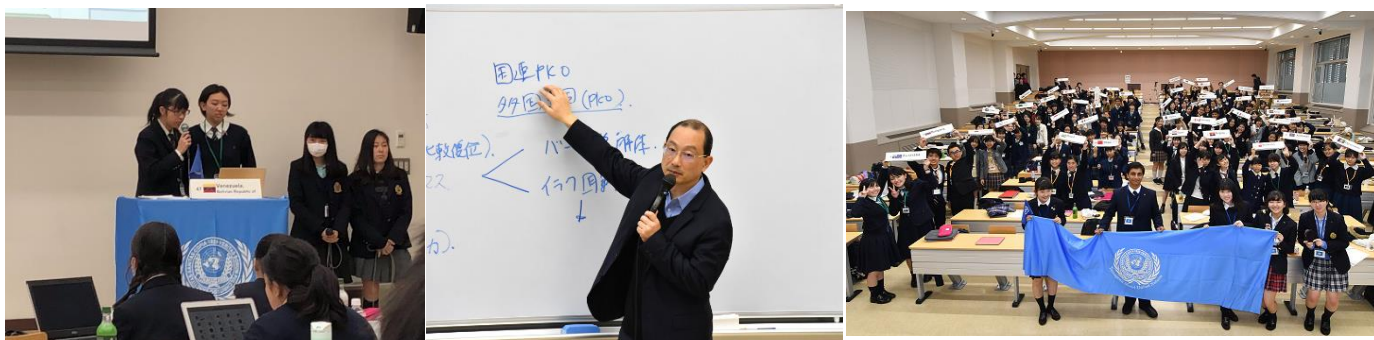
参加校：玉川学園、公文国際学園、ぐんま国際アカデミー、渋谷教育学園渋谷、渋谷教育学園幕張、  
 頌栄女子学院、聖心女子学院、清泉女学院、広島女学院、立教女学院、立命館、山手学院  
 昭和女子大附属昭和高等学校 計 13 校

1月13&14日に玉川学園で開催された「第5回SGH模擬国連会議」に、本校の5年生7名が参加しました。関西や北関東の学校も含め全国から13校の130余名の中高生が参加する大規模な会議となりました。議長も会議監督もすべて高校生が担当し、日英両言語を駆使して行う正式な会議です。

議題は「2003年におけるイラク平和構築」。16年前に実際に開催された「イラクにおける包括的再建に関する会議」にさかのぼり、実際の会議よりも良い戦後処理を模索する目的を掲げた野心的な「歴史会議」です。

本校の大使も英語スピーチに挑戦する等、がんばりました。最後に、実際にイラク和平やアフガニスタン、東チモール等、世界の紛争解決に国連スタッフとして関与して来られた上智大学の東大作教授から講演とご講評をいただきました。現場に身を置いて来た方からの直接の和平交渉の舞台裏の話は、臨場感があり、有意義でした。

難しいと予想されていた交渉も、担当大臣が日本に留学経験があり、大の親日家だと分かると、全く問題なくスムーズに進んだという逸話には、「外交も平和も人と人が作るものだ」という思いを新たにしました。東教授は、何度となく「自分が高校の時代は野球しかしていなかった。今は中学生から国際平和について高いレベルの熱い議論を二日にわたって交わす。驚くことばかりです」と、会議の質を高く評価して下さいました。



初めて大きな会議に参加した本校の参加者の一人は「高レベルな会議で本当に圧倒されました。議場で大きな声で他国の大使を集める様子など、強いリーダーシップを発揮する生徒達に驚きました」と率直な感想を述べていました。また、経験のある大使は「会議として時間の使い方がうまく行かなかった。自分の主張にこだわるのではなく、制限時間の中、全体で何を達成したいのかということとどれだけ各大使が意識して行動できるかが大切だと実感しました」と語っていました。「自分はキューバ大使として、米国とロシア陣営に属さない中立国としてグループを形成しました。が、その主張を米露の大国に分かってもらうのが難しく、実際の合意形成の困難さを実感しました」。また、「他流試合は楽しく、刺激になります。次の会議にも挑戦して、今回達成できなかった自分の課題を少しでも克服できるようにがんばりたいです」と新たな意気込みを語る大使もいました。

今回は、女子生徒が多く、女子が一貫してリーダーシップを発揮した会議となりました。こうした活動の積み重ねで、一人一人が世界の平和構築にかかわって行くプロセスが実現して行くことを感じられた会議となりました。関係者の皆様、貴重な場を作っていただき、ありがとうございました。

